

タイの難民キャンプ報告

昨年12月初旬、タイのミャンマー難民キャンプを訪問する機会を得ました。タイには内務省(MOI)に登録されている難民が約11万人、登録されていない難民を含めると約14万人がいと推定されます。そのほとんどが1980年代以降、ミャンマーの軍事政権との衝突や人権抑圧からタイに逃れてきたカレン族とカレニー族の人々です。タイにはミャンマーとの国境付近の山間部に計9つの難民キャンプが点在し、私が訪問したタムヒン・キャンプとバンドンヤン・キャンプはそれぞれ国境から12キロと800メートルの位置にあります。

キャンプではいくつかのNGO(非政府組織)が協力して援助活動を進めています。それぞれに専門分野があり、学校や診療所の運営、食糧の配給などを担当しています。日本のNGOである「シャンティ国際ボランティア会(SVA)」がバンドンヤンで図書室を運営し、カレン語、ビルマ語、タイ語の翻訳が貼られた絵本を子どもたちが熱心に読んでいました。

UNHCRは主に難民保護、タイ政府との折衝、各NGO間の調整、そしてキャンプ内での性的虐待(SGBV)を防止するためのプログラムを進めています。



タムヒンは1997年に設営され、その狭さから、9つあるキャンプの中で環境がもっとも悪いと言われています。約9000人が約73平方キロメートルに住み、最近ではゴミを埋める場所もなく困っているそうです。当時の高等弁務官であった緒方貞子氏が2000年に訪れ、スペース拡大の必要性を訴えましたが、まだ実現されていません。

バンドンヤンはタムヒンより広く、難民は畑で2~3か月分の野菜を自給できます。しかし、難民がキャンプの外で経済活動をすることは認可されていません。そのためかキャンプ内の男性はすることがなく手持ち無沙汰の印象を受けました。サッカーボールを蹴って遊んでいた子どもたちは対照的でした。「難民となって6年が過ぎました。みんなが働き方も忘れてしまったのではないかと心配です」とタムヒンのキャンプ委員会副委員長のダニエル氏が言う

いました。

キャンプ内には学校の他に職業訓練プログラムがあり、裁縫、機織り、料理、車修理などを教えています。タムヒンでは料理クラスで作ったという非常に美味しい昼食をご馳走になりました。バンドンヤンでは故障した発電機をプログラムの卒業生が修理することができたという話も聞きました。

タイの難民キャンプは比較的恵まれた環境にあるのかもしれませんが。世界にはもっと過酷な状況にある難民キャンプが数多く存在します。しかし、カレン族やカレニー族の人々にとって、故郷を追われ、難民キャンプでの生活を強いられているということは紛れもない事実なのです。バンドンヤンのキャンプ委員会のクヌ委員長が、「とにかく、早く故郷に帰りたい」と話していたのが印象的でした。

(井上清治 日本国連HCR協会)

アフガニスタンの新しい先生たち

皆様からのご寄附は、アフガニスタンの住宅再建プロジェクトだけでなく、アフガン難民の帰還に関わる様々な支援活動にも活用されています。その一例をイギリス版「With you」より紹介します。

「もし読み書きができれば、もっと世界について知ることができるだろう。アフガニスタンの識字率がもっと上がれば、戦争を防ぐことにもつながるかもしれない」アフガニスタンの新しい先生、モハンマド・アリ(25歳)

2002年春以降、200万人以上のアフガン難民が故郷に帰還した。ご寄附は故郷へ戻るための旅費や地雷回避教育、子どものワクチン接種、ピニールシート、石鹸、生理用品、小麦粉の支給などに使われる。またUNHCRはアフガン人の若い先生を養成するプログラムも実施している。

イランで研修を受けていたアフガン人の新しい先生約1000人が帰国の途についた。

アフガニスタンの平和と繁栄を担うのは若者たちであり、そのためにUNHCRは青年援助プログラムの一つとして、先生の養成を行っている。

この記事が読まれる頃にはハニフェ・アリと弟モハンマドは、崩壊した教室で、子どものみならず大人にも読み書きを教えるのに奮闘しているだろう。帰還民の約7割が教育を受ける機会がない国では、彼らの努力はかけがえのないものである。

若い先生の研修にかかる費用は1か月でわずかに約3000円である。UNHCRのアフガニスタン支援に寄附してくださった人々は、この新しい先生から学んだ生徒が、国の復興に欠かすことができない医師、企業家、技術者、先生などに育っていくことを期待できるだろう。

今のアフガニスタンが抱える問題の中には、長年にわたって教育の機会がなかったことに起因するものがあると多くの人々が感じている。アフガニスタンの新政権は学



イランの学校で学ぶアフガン難民の少女たち

校や大学を修復し、新しい先生を募り、全ての子どもたちが学校に登録できるように努力している。しかし、教室、教材、先生の不足が大きな壁となっている。

(イギリス版「With you」2003 Issue 1より)

「難民教育基金」(RET)情報

パキスタンでは2001年9月から5年計画で、おもに北西国境地域のアフガン難民の中等教育を支援している。ベシャワールのリソースセンターでは、4人のアフガン難民女性が数学、生物、化学、物理を担当し、新しい世代の教師養成に努力してきた。2002-03年度には、3つの中学校で生徒2120人(女子1323人、男子797人)教師134人(女性92人、男性42人)を直接支援し、間接的支援は1万2084人の生徒に及んだ。